

アンサンブル天下統一 インタビュー

弦楽トリオ「アンサンブル天下統一」は、「コネット」を拠点にして室内楽の魅力を全国へ発信する、岡崎初のレジデント・アンサンブルとして2014年に結成しました。今年6月の、第4弾の公演を前に、メンバーの中木健二(チェロ)、長原幸太(ヴァイオリン)、鈴木康浩(ヴィオラ)の三人にインタビューしました。

6月に結成4年目。

グループとしての変化は?

長原: 慣れてきたかな。気張ることがないし、回を重ねるにつれてお互いスムーズにできるようになってきた。呼吸も分かるし、こうなるだろうな、こうするだろうなという着地点が分かってきた。



鈴木: 点が分かるようになってきた。鈴木: 中木のこだわりもね(笑) 長原: 練習も凝縮してぶっ飛ぶような感じもあり、理想の完成像が高くなる気がする。

中木: 二人とも大先輩なので語弊がないように伝えなくてははいけませんが、練習の度に、前々からすごく上手いと思ってたけれど、あれ?二人はこんなに上手かったわけ?と感ずることがある。毎回どのくらい上に行っているように感じて。鈴木: 嘘ついてない?(笑)

鈴木: (長原) 幸太くんとは違って、僕は着地点が想定しているより少し遠くに感じる事があります。二人とも読響(読売日本交響楽団)での活動や、いろいろな活動を通して様々な経験をしている人から影響を受けていると思います。山形公演(2016年7月10日)の際も直前にイタリアから戻ってきた幸太くんはムーティ(指揮者リッカルド・ムーティ)からの影響をすごく受けてきて、今まで見たことのない幸太くんの二面が見えた。

鈴木: (笑) すごかったね。ずっと「カント(歌って)、カント(歌って)」って言うてた。長原: 今回はピアノが入った編成が実現。新たな期待感はない? 長原: ピアノが入るからというよりも「ます」を弾くことにワクワク感を感じるよ。

鈴木: この面子に加えて、ゲストの二人(ピアノ 佐藤卓史、コントラバス 池松宏)も素晴らしいからね。でも実は、佐藤くんとは初めて。

長原: (佐藤)卓史は、学生時代に学生オーケストラ・イギリス公演(東京藝術大学で、ショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第一番を弾いたのを聴いて以来。共演するのは14、5年ぶりかな。すごく素晴らしいから覚えている。

中木: その公演、僕も奏楽堂(東京藝術大学内)で聴いていた。鈴木: 僕は、浜松国際音楽コンクールの三次予選(室内楽)で聴いたかな。佐藤くんの受験順番の都合で共演は出来なかったけど、聴いてすごく良かったよ。

鈴木: (佐藤)くんは、仲間内の評判は高いよね。中木: そうですよ。昨年4月に共演してサン・サンスを弾いたので、すごく素晴らしい。長原: 何がどう素晴らしいの? 中木: 若いのに... 長原: 若いのに... 中木と変わらないうま... (笑)

鈴木: 若いのに、ものすごい安定感と存在感。鈴木: あと、コントラバスの池松さんは怪物。長原: プロフィールに興味載せる人、初めて見た(笑) 釣りの大会優勝だからね。

中木: その実績は、どのプロフィールより価値があるって聞いたことがあるよ。鈴木: その人が「ます」を釣るんだからね。長原: 中木: (笑) うまい! 鈴木: でも「トラウト」って「ます」じゃなくて「イワナ」だよ。ヨーロッパで魚の表記にそんなに区別はなくなるし、空間も広がって聴こえると思うから。遊びも増えるし... 怖くなってきた。

て...。実際シューベルトの行った地方には、まずは生息してなかった。長原・中木: へえ。



みなさん、池松さんと共演されていますよね?

鈴木: すごいですよ。池松さんは同じ形でない人。1年前の池松さんと今年出会う池松さんは違う。常に進化していると思う。あと、自分たちでもいつも気をつけている事なのだけれど、オケにしているんなものがカッチリしてしまったり、停滞してしまうことが多いけど、池松さんはそういう事とは全く無縁な人です。オケの中でも自由音楽的にも一音、一音でわくわくさせてくれると思う。

中木: しかも今回はオール・シューベルトプログラム。シューベルトはカッチリとは無縁な作曲家だと思っ。オール・シューベルトというプログラムに関しては? 長原: 実はシューベルトは嫌い。うじうじしているから。

鈴木: でも、幸太は演奏すると素晴らしいです。長原: 自分が根暗だから(笑) 鈴木: オール・シューベルトプログラムは普段はやらなからね。ヴァイオラ奏者はアルペジオ・ネクラいしか



弾かない。例えば、オーケストラの公演でも滅多にない。ベルリンにいる時にアーノクール(指揮者ニコラス・アーノクール)とシューベルト・ツィクルスを弾いたかな。やっぱりオーケストラで弾いていると、ただただ綺麗。長原: まあね。基本は歌曲だからね。それを、無理矢理弦楽器に書いているから難しい。形式にもこだわっているから。さっきカッチリとは無縁って話があったけど、俺はカッチリありきで下手に書いてしまった気がする。分析し甲斐はある曲だけだね。ピアノ五重奏は、みんなが集まってワッと弾けるモーツァルトの延長みたいな曲。シューベルトの作品は一概にこうだ、とは言えないけど三重奏は確かに作り込むのは難しい。

鈴木: 三重奏第一番はけっこう怖い曲だよ。

長原: 怖いね。

中木: こころいかな。という見せどころは、短い曲だけある曲だと思っ。

鈴木: そうだね。シンブルだから、さうまういけば、はかなくふわっと綺麗に輝かせることができると思っけれど、そのぎりぎりの綱渡り感、かすかす怖い。弦楽器は重音を出せば、それだけで五声部、六声部作られたりするけど、シューベルトはシンブルに音が三本しかない。つまり音の厚さがないから、そのかわりすごく綺麗なハーモニーで書いてある。ハードルが高い曲だよ。本当は目をつぶって聴いていたい曲かな。

中木: 確実に、今までのトリオとは違った何かを見せることができると思っ。長原: 今までのアンケートで「楽しんで弾いてますね」という感想を貰っていたでしょ。でも今回は、楽しそうには弾けない(笑) 曲が曲だから。真面目に慈しむように大事に弾いていると思っ。その反動で、「ます」で大暴れするから。

鈴木: 弦楽三重奏は、パワフルな場面はあまり出てこない。エネルギーは内包していると思うけど。これは、いかに綺麗な透明感のあるものを育て上げていくかというところだね。中木: それを考えると、同じ一人の作曲家のプログラムでもコントラバスが利いていると思っ。

鈴木: 弦楽三重奏とピアノ五重奏の組み合わせはとも良いと思っ。ピアノ五重奏は一気にボリュームが上

6月の岡崎公演に向けて鈴木: シューベルトって基本歌でしょ。どの旋律にも歌の歌詞がなんとなくある感じがする。弦楽器で歌っていることが身近に感じられる、普段では味わうことが出来ない機会になると思っ。

長原: それ採用! 中木: 初夏でしょ。シューベルトでしょ。やっぱり白ワインですよ。本当だったらこの時期のワインはアスパラと白ワインでしょ。

長原: お前ってホントおしゃれたと思っ。鈴木: 俺と幸太は下町と広島のおっさんでしょ。中木はどこかの貴族でしょ(笑)

中木: シューベルトが生まれ育った場所、昔はウィーン市郊外だった場所。確かワインを造っていた場所だから、あながち冗談ではないよ。

今後、アンサンブル天下統一の目標全員: やっぱ全県制覇。最後に東京公演が出来たら最高! 中木: ふざけているように見えるけどアンサンブル天下統一は、純粋に音楽を楽しんで、それを聴いている人と分かち合いたいというコンサート。弾いてみたい曲はけっこうあるよ。アンサンブルの醍醐味についてなど、お話はまだまだ続きます。インタビューの完全版は後日発行の別刷りチラシでお楽しみください。

好評発売中 ジュニアシート募集期間 4/10~5/20

コネット室内楽シリーズ アンサンブル天下統一 2017

2017年6月3日(土) 15:00開演(14:30開場)
出演: アンサンブル天下統一(長原幸太、鈴木康浩、中木健二) 池松宏(コントラバス)、佐藤卓史(ピアノ)
曲目: シューベルト: 弦楽三重奏曲 第1番 変ロ長調 D471 弦楽三重奏曲 第2番 変ロ長調 D581 ピアノ五重奏曲 イ長調「ます」D667
場所: コンサートホールコネット
料金: 全席指定 一般3,500円 ※未就学児の入場はご遠慮ください。



長原 幸太 (ヴァイオリン) Kota Nagahara 東京藝術大学附属音楽高等学校、同大学を経てジュリアード音楽院に留学。1998年日本音楽コンクールに最年少優勝。2011年に第21回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞を受賞。2012年に大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスターを辞し、2014年に読売日本交響楽団のコンサートマスターに就任。ソリスト、室内楽奏者、オーケストラのゲストコンサートマスターとしても活躍。



鈴木 康浩 (ヴィオラ) Yasuhiro Suzuki 読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学卒業後ヴァイオリンに転向。第47回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位。第9回クラシックコンクール全国大会ヴァイオリン部門第2位(1位なし)。ドイツのカラヤン・アカデミーで研鑽を積んだ後ベルリン・フィルの契約団員となる。協奏曲でのソリストや室内楽、リサイタルなどで精力的に活躍。



中木 健二 (チェロ) Kenji Nakagi 岡崎市出身。東京藝術大学を経て、バリ国立高等学校音楽院、ベルン高等音楽院の両校を首席で卒業。2010年フランス国立ポルドー・アキテーヌ管弦楽団首席奏者に就任。2014年に帰国し、ソリストおよび室内楽の演奏活動を本格始動。紀尾井シフオニエツタ東京メンバー、東京藝術大学准教授。使用楽器はNPO法人イェロー・エンジェルより賞与されている1700年製ヨーゼフ・ヴァルネリ。